

保育者の子どもたちへのかかわりが、温かく、応答的であること

日本全国に5万もの保育園、幼稚園、こども園があります。どの施設も子どもの最善の利益を保障するという目的は一緒です。しかしその”手法”は千差万別。モンテッソーリ教育やシュタイナー教育は有名ですが、それ以外にも世界にはたくさんの保育”手法”が存在します。ちょうど今玄關の本棚に世界の保育についての書籍が置かれています。そんな中で私たちの保育”手法”は『見守る保育』というものです。

見守るの反対は見張るです。子どもは放っておいたらろくなことをしない、すぐに危ないことや喧嘩をする。だからしっかり見張って、もしそうしたらビシッと注意する。この眼差しが見張る保育です。性悪説とまでは言いませんが、叱ることやシメることが前提の保育です。

一方、見守る保育ではどんな小さな子どもでもきつと意思や想いがある。たとえ良からぬ行動でもその子なりの理由があつてのこと。発達上、分別がつかないのも当然。だから次はそうならない様に保育環境を整えようと考えます。環境を変えることで行動の変容を促そうとするのです。ちなみに一口に環境と言っても、物的環境や人的環境、空間的環境など多岐に渡ります。

見守るという言葉には肯定的で支援的であたたかい眼差しと、過保護、過干渉にはならないがいざという時にはすぐに助けにいける距離感が含まれています。私たち職員は子ども達を裁くのではなく、理解しようとしています。常に温かい言葉とスキンシップで対応しようとしています。一人でも、みんなとでも、楽しく過ごしていればそれを邪魔することは避けます。逆に共感して欲しかったり気持ちが不安定になったり、助けて欲しいことがあったりすれば、いつでも手を差し伸べます。つまり応答的でいようと心がけています。傾聴する姿勢を大切にしています。これが私達が保育にあたる上でのマインドセットです。忙しくなったり、余裕がなくなったりすると、理想から離れてしまうこともしばしばですが、そんな時はまた環境を見直して、自分を取り戻す様にしています。

さくらしんまち保育園 園長 小嶋泰輔



園内研修 発表ポスター
2020年10月吉田あや

子ども達に片付けを促していた時にごっこゾーンで遊び続けており、声を掛けようとした際、洗って元に戻そうとしていることに気がついた。「早く洗ってお店閉めなきゃ」「でも汚れてたらダメだからちゃんと洗おう」まるで閉店作業を行なっている店員さんの様だった。お集まりの時間が迫り、「早く片付けようね」という言葉を掛けようとしていたのだが、必死に閉店作業を続けている姿を見て、見守ることにした。見方によってはお集まりになっても遊び続けている子、でも反対にお集まりに向けて一生懸命片付けをしている子。子ども達が遊びの中から様々なことを学び、習慣へと変わっていく。その育ちを見守っていける気持ちの余裕と、子どもたちの遊びの広がり色んな視点から見ていく大切さを感じた。(吉田あや)